

平成 30 年度 第 1 回座間味村総合教育会議 議事録

日時：平成 30 年 6 月 21 日（木） 13：30～ 14：50

場所：座間味村役場 2 階 会議室

出席者： 市村志津子委員 当間裕正委員 照屋学委員
中村光男教育長 宮平壮一郎教育課長
宮里哲村長 松田力総務・福祉課長
田中英理子総務・福祉課参事（事務局）

1 開 会

村長： 30 年度第 1 回会議を開催する。

インターネットを活用した離島高校設置の動きがあり、本村の総合教育会議としての見解を示したいので、皆様のご意見を伺いたい。なお、前回ご提案のあった議事録の公表は、村ホームページでさせていただいているのでご報告する。

2 議 事

(1) 教育課長から 30 年度教育関連予算と事業について

- ・ 幼稚園、座間味校教員宿舎については昨年度予算をいただき完成している。
- ・ 本島への選手等派遣事業は、バドミントンの県予選出場も決まって成果を上げている一方で天候・海況に左右され、執行率が思うように進まないことも。
- ・ 阿嘉校解体と設計、教員宿舎耐力度測定などいずれも単費である。限られた予算の有効活用に努めたい。また、プレハブ校舎整備については 9 月補正を見込みたい。
- ・ 一括交付金事業として戦跡整備を行う。つつじの塔と平和の塔の工事に着手する。
- ・ 11 月に予定される「へき地研」は学校主体で準備が行われるのでサポートしたい。
- ・ 大阪の震災で課題が浮上している通学路のブロック塀についてすでに調査を行い、課題も浮上している。

(2) ICT を活用した離島高校について

村長： 昨年 11 月の会議でも話題にしたが、離島にいながらにしてインターネットを活用した遠距離授業で学べる高校を作ってはどうかという話がある。

離島の子らには「15 の春」というハードルがあり、本人と保護者の経済的、精神的不安の解消に向け那覇に学生寮をつくることができた。また、離島から進学した高校生一人に対して国、県、村で月額 2 万円の助成金を出し合い経済的負担の軽減をはかっている。

る。親元を離れる子供に対する考えや施策は自治体間によって差があるし、ネット高校設置を希望する子供が多い自治体もあると思う。

しかし、親の立場として私が思うのは、同級生が数人しかいない島ではなく、大人数の学校へ送り、集団の中で様々なことを経験させたい。わが家はすでに高校、大学に進学したが、小学生を持つ保護者の方もそのようにおっしゃっていた。行政としては、もっと他の教育環境充実の側面から島ちゃび解消につとめるべきではないかと感じる。

また、インターネット高校とはいえ先生の配置が必要であろうから、財政負担も懸念される。

(村長から資料提示) 「島嶼地域ネットワーク高等学校」構想(実証実験)

教育長 : 基本的にはまったく村長の言われる通りだ。「15の春」が、過分にマイナスイメージで受け止められてはいないかと懸念する。本村の学校現場ではポジティブにとらえていて、島から広い世界へ飛び立つ日のために、心も体も鍛えることを先生たちは日々心掛け子どもたちを育てている。ハードルを越え、成長する機会であることを知ってほしい。

ICT活用もよいことだが、離島の子どもたちには広い世界に気概を持って出て行ってほしい。島を出て自分の力で歩いて行ってほしいと思う。

市村委員 : 考えてくださる方には申し訳ないが、「島の子は遅れているから、本島に出るのは厳しいだろう。だからやってあげなくては」というようにも聞こえてしまう。逆に島出身の子は一足早くたくましくなり、生活力もつくというメリットと私たちは捉えている。親の負担といっても、十年、二十年前に比べれば最近は支援も多く、島から出す環境もずいぶん良くなっている。

照屋委員 : ICT技術の利用には、機械のメンテナンスや人件費もあり、財政負担増ではないかと懸念する。子どもたちにとっては、島から出て見識を広めるのがいちばんではないか。私もかつて、とても出たかったのを覚えている。

村長 : 勉強だけでなく、高校には部活もあれば、恋愛もあるかもしれない。

当間委員 : 「15の春」を経験した我々の実感として、“外のことを知ってこそ、島のことわかる”ものだ。本人のためにも一度は島を出て行かなくてはならないのなら、若いうちに出るのはよいことだ。離島高校の構想にはあまり賛成できない。

村長 需要がまったくないとは言わない。しかし希望する子どもが毎年いるとは限らない。総務・福祉課長はいかがか。

松田課長 : 現時点で希望者がいるとは思えない。

村長 : 離島の子らがかわいそうだから、ではなく、離島のすばらしさを活用して、ここに都会の子らを住ませ、授業をICTで行うのはどうか、というユニークな提案をする国の方もいる。

(事務局から伊計島のN高校紹介)

村長 : 本村の総合教育会議としての考えを国や関係機関にお伝えしてゆきたい。

(3) その他

村長 : 先日の大阪北部の地震で学校施設のブロック塀が倒壊し児童が犠牲になるいたましい事故があった。学校の先生とも連携して各校の施設だけでなく、通学路に危険な場所がないか点検をお願いしたい。

教育長 : 地震の翌日には調査に着手し、一部危険箇所について対策を講じている。

村長 : 文化財審議委員会と延長保育についてはその後いかがか。

教育課長 : 審議委員会は、渡嘉敷村と文化財について意見交換を予定している。延長保育の課題は人材の確保が課題であり、住宅難もネックだ。

総務・福祉課長 : 村役場職員も教職員同様島外からの採用をすることが増え、住宅難に直面しているため、公務員宿舎建築の計画がある。専門職の確保には我々も協力したい。

村長 : 現在も村営住宅の空室入居の選考を行っているところだが、応募が大幅に上回っている。公務員宿舎は8世帯分作りたいたいと思っているが、民間のアパートに住む役場職員が引っ越して空室がでるという効果も。また独身用住宅6世帯、阿嘉島のペンション改修で6世帯など、これから20世帯分の住宅を整備する予定だ。

村長 : さて、教室へのクーラー設置の件は議会からもご要望があるが、導入費、ランニングコストともに財政的負担が大きいので、特別教室を活用していただけないかというのが当方の考えである。

教育長 : 心情的には入れてあげたいが財政の課題もある。また生徒の多い座間味校と阿嘉校では状況も違う。

教育課長 : 教室に温度計を置くなど、実態を調べている。先生方によれば集中力が落ちる子もいるとか。コストを低くする技術的な方法も検討したい。

照屋委員 : 授業参観の際、雨が吹きこむので窓を閉め切っていたが、先生も生徒も汗を流しながらの授業でかわいそうだった。学力低下につながる心配だ。

村長 : 事務局では調査を継続していただき、議論を深めたい。11月の会議でまた意見交換したい。

市村委員 : 職員の人数について申し上げたい。教育委員会事務局の事務量が増えているが、一方で働き方改革も重要だ。人数は増やせないのか。

総務・福祉課長 : 村長部局とは別機関であり連携不足かもしれないので、当方としても考えていきたい。ただ、福祉系職員が常に残業している状況が続き、やっと4月から増員したところであり、総務・福祉課も苦慮している。工夫と検討を継続したい。

村長 : 定員管理上はもう一人職員は増やせる。しかし、他課においても足りないことをご理解いただきたい。

当間委員 : 最近不審者情報が多い。万が一学校に来た場合、緊急時の対応について村長の考えを伺いたい。

村長 : もちろん役場も協力するが、私は職員を守らなくてはならず、事件発生時点で行政職員がどこまでお手伝いできるのか不安もある。警察とも連携して非常連絡体制を整えていただきたい。不審者情報の共有のようなことも考えたいがどうか。

当間委員 : 校舎の管理についてだが、学校訪問の際、慶留間校体育館の外壁が剥離しそうな状況であった。

教育課長 : 業者に見積を依頼し、修繕の準備をしたい。

総務・福祉課長 : 私から一つお伝えしたい。財政状況が決して良くない状況で、昨今建築工事も多く予定されている。村のお金を預かる者として、子どもの数に比べて、本村では学校運営、教員宿舎にかかる費用負担が非常に大きい。

結果はどうあれ阿嘉校と慶留間校の統合について、地域での議論の対象にしてほしい。過疎化など地域の心配もあるのは理解している。

市村委員 : 何年か前にその話を慶留間でしたら反対にあった。何もなくなるのではなく、小学校と中学校を両島でわけるという案もあるのでは。

当間委員 : 統廃合は将来的には考えないといけない。

市村委員 : 県外では島渡りして30分以上かかる学校へ通っている例もある。

村長 : 島から学校がなくなるのは大変なこと。一方で、小学校中学校の数が減れば校舎、教職員住宅の管理など、仕事も予算も圧縮される。

いずれにしろ、子供たちにとってどうなのかを地元の方に考えていただきたい。地域づくりに尽力される地元の方の思いも大切だが、子供たちにとってのよい学習環境づくりの視点が最も大切ではないだろうか。

(4) 次回開催について

11月の定例教育委員会開催日に行う。

以上

当日配布資料

平成29年度第2回会議録 座間味村教育大綱